

科名 血液内科  
 対象疾患名 再発・難治性の多発性骨髄腫  
 プロトコール名 EPd 3クール目

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1 ... 8 ... 15 ... 22 ... 28
1	点滴注	メイン	生理食塩液	500mL	ルートキープ 残破棄	↓
2	点滴注	側管	デキサート注	6.6mg	30分かけて	↓
			ファモチジン注	20mg	投与終了後、前処置薬を内服し、 ルートキープにて45分休薬	
			生理食塩液	50mL		
45分休薬						
3	点滴注	側管	エムプリシティ	20mg/kg	180mL/hr→240mL/hr 45分前までに前処置薬を内服して いることを確認	↓
			注射用水	13mL	フィルター付きルート使用 体重50kg未満は希釈液150mL	
			生理食塩液	250mL	50-90kgは250mL 90kg以上は350mL	
	経口		ポマリスト	4mg/body		d1～d21
	経口		デキサメサゾン	28 or 8mg/body	エムプリシティ投与 3-24時間前	↓
	経口		デキサメサゾン	40 or 20mg/body		↓ ↓ ↓

★1クール=28日

～MEMO～

催吐リスク2(10%以上30%未満)

フィルター付き(回路名:JY-PF340P52)を使用

- ・妊婦・妊娠の可能性のある患者には禁忌
- ・必ずポマリスト、デキサメサゾンと併用して使用すること。

ポマリスト: day1-21投与、7日間休薬、デキサメサゾン: 経口でday1は28mg(75歳超は8mg)、day8,15,22は40mg(75歳超は20mg)を投与する。

<エムプリシティ>

《インフュージョンリアクション対策》

- ・前投薬(デキサート、ファモチジン)投与終了後、アセアミノフェン 0.5g/回、ホラミン(2) 1/回を内服し、ルートキープにて45分休薬。
- ・エムプリシティ: 0.5mL/minの投与速度で点滴静注を開始し、患者の忍容性が良好な場合は、患者の状態を観察しながら、投与速度を以下のように段階的に上げることができる。ただし、投与速度は5mL/minを超えないこと。

10mg/kg投与時

1クール目 day1: 投与開始0-30分(0.5mL/min)→30-60分(1mL/min)→60分以降(2mL/min)

1クール目 day8: 投与開始0-30分(3mL/min)→30分以降(4mL/min)

1クール目 day15以降: 投与開始～(5mL/min)

20mg/kg投与時

1回目: 投与開始0-30分(3mL/min)→30分以降(4mL/min)

2回目以降: 投与開始～(5mL/min)

- ・エムプリシティ調整方法: 300mgの製剤の場合は13mL、400mgの製剤の場合は17mLの注射用水で溶解し、

25mg/mLの濃度とした後、体重50kg未満は150mL、50-90kgは250mL、90kg以上は350mLの生食又は5%ブドウ糖液で希釈する。